

ウイークリースタンス

## 群馬建協、徹底へ 24年度行動指針

企業組織内にも波及を

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は2024年度、ウイークリースタンスの実施徹底にさらに力を入れる。16日に前橋市の群馬建設会館で開いた総会後の記者会見で青柳会長は24年度の行動指針「しっかり働き ゆっくり休む 4週8休」を公表し、「働き方改革で最も大切なのは意識改革だ」と訴えた。写真。受発注者間だけでなく、企業の組織内でもウイークリースタンスの考え方を波及させる。

――5面に関連記事

指針では週休2日のほか、▽月曜日を仕事依頼の期限日としない▽水曜日を

ノ残業デーとする▽金曜日に仕事を頼まない―を掲げた。オンとオフのめりはりのある働き方の普及を目指す。

会見で青柳会長は労務費の決定方法にも言及。「労務費をオンタイムで上げる仕組みをつくるくらいのこととしないと（建設業の）『2024年問題』に対応できない」と指摘した。今後の地域建設業の在り



方を示した「G-a c t i o n 2024」も発表した。「働き方改革」「DX」「限界工事量+a」の3本柱で構成する。限界工事量+aでは、情報収集と訓練、人・もの・資機材の充実による「災害対応組織力」の点検と強化、行政やマスメディアとの情報共有システム「ぐんけん見張るくん」を生かした災害訓練や情報発信などを列挙。限界工事量+aを支える「地域密着型事業量」として、地域の災害対応を担う人員を育成できる仕事の割合を協会12支部を対象に調査している。

群馬建協

## ウイークリースタンスに注力

「しっかり働き ゆっくり休む」

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は16日、前橋市の群馬建設会館で総会を開き、2024年度の事業計画や予算を承認した。24年度は「しっかり働き ゆっくり休む 4週8休」を指針に掲げ、ウイークリースタンスの普及に力を入れる。情報収集と訓練、人・もの・資機材の充実で地域を守る「災害対応組織力」を向上させる。リカレント（学び直し）研修やICT施工研修なども行う。

Ⅱ 1面参照

冒頭あいさつした青柳会長Ⅱ写真Ⅱは建設業の課題として「人材確保育成」「生産性向上」「災害対応組織力強化」の3点を挙げた。建設業の「2024年

問題」が全体に関わってくる」とし「タイムラグのある労務費をオンタイムで引き上げられる仕組みを作るきっかけになるかもしれない」との見解を示した。「地域間や規模の格差の広がりも気にせねばならないポイントだ」とも指摘した上で「協会のまとまりをつくり、新しい指針に向かえればと思っている」と締めくくった。

来賓の山本一太群馬県知事は「青柳会長のリーダーシップの下で頑張っしてほしい。県としては防災・減災や安定的・持続的な公共予算確保に努めていく」と話した。

総

会



群馬建協の定時総会

「G-アクション2024」

# 地域密着型事業量を検証

## 6月頃に調査結果発表

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は、前橋市の群馬建設会館で2024年度定時総会を開いた。24年度の行動指針を「しっかりと働きゆくり休む4週8休」に設定。24年以降に展開する施策を「G-アクション2024」としてまとめ、▽働き方改革▽限界工事量プラスα▽DX（デジタルトランスフォーメーション）の展開――の3点を柱に、労働時間に対応した労務費確保、地域密着型事業量確保な



どを目指す方針も示した。まずは、地域密着型事業量の現状を検証するため、県内の実態調査に乗り出す。

地域密着型の事業量がどうなっているのか検証する必要がある。県内12支部の実態を調査・検証し、6月ごろに発表したい」と述べた。

総会後に会見した青柳会長は、「意識改革をしっかりとしていくことが大事だ」という思いで行動指針を設定した。組織内でもウィークリスタンスの考えをしっかりとしていくことが大事だ」と強調した。写真。

働き方改革に向け、労務費の問題点も指摘。「設計労務単価は、9、10月に調査して翌年の2月に決まる。しかし、労務費をオンタイムで変える仕組みを考える必要があるのではないか。所得を上げる仕組みが求められている」と訴えた。

能登半島地震を踏まえ、地域建設事業者が災害対応を継続できるよう、限界工事量の確保にも力を入れる。「改めて全国どこでも、いつでも災害が発生するということを考えさせられた。地域の建設業の役割を見つめ直す機会になった」と強調。

デジタル人材の育成や一貫通貫の3次元データ活用、生成AI（人工知能）の活用も推し進める。

その上で、「現在、ぎりぎりのところで災害対応組織力は保たれているが、いつ厳しい状況になるかわからない。

デジタル人材の育成や一貫通貫の3次元データ活用、生成AI（人工知能）の活用も推し進める。

## 働き方改革「業界変わる」

県建設業協会が総会



本年度の行動指針を発表する  
青柳会長

県建設業協会（前橋市元  
総社町、青柳剛会長）は16  
日、同市の群馬建設会館で  
定時総会を開き、働き方改  
革実現などに重点を置いた  
2024年度事業計画を報  
告し、行動指針を「しっか  
り働き ゆっくり休む 4  
週8休」とした。

青柳会長は4月から働き  
方改革関連法に基づく時間  
外労働の上限規制が始まっ  
たことに触れ「業界が変わ  
るチャンス。労働時間と賃  
上げをベースにして、建設  
業の働き方改革を示せるか

大事な年度だ」と話した。

総会後の記者会見で改革  
実現の具体策を問われると  
「金曜に『書類を月曜まで  
に持ってきて』と頼まない  
などの意識改革が大事」と  
指摘。受発注者間で1週間  
のルールを定めて円滑に業  
務を進めるワークリステ  
タンスを企業内でも進めて  
いくとした。

総会では、23年度決算を  
承認。協会や業界の発展に  
貢献した計38人に表彰状が  
贈られた。（佐藤秀樹）

# 行動指針『しっかり働き ゆっくり休む 4週8休』

## メリハリ利いた仕事推進

### 群建協24年度定時総会

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は16日、前橋市内の群馬建設会館で2024年度定時総会を開催、全議案を承認した。行動指針に『しっかり働き ゆっくり休む 4週8休』を掲げた。また、2024年度以降の地域建設業のかたちとしてG-i-action 2024を示した。青柳会長は「オンとオフのメリハリの利いた仕事の進め方を推進していきたい」と考えを語った。また、時間外労働規制の適用については「法規制を乗り越えた先の新たな建設業の風景をしっかりと見せていくことが、大きく変わっていく『きっかけ』となる。ポイントは『労働時間とコスト』をセットで考えなければならぬ」と述べた。



行動指針を示す青柳会長

## 青柳会長「法規制乗り越え新たな景色を」

総会後の記者会見で青柳会長は「元旦の『1000年に一度』と言われる災害、改めて全国どこでも、いつでも発生するであろうことを考えさせられた」と能登半島地震に触れ「災害時の備え」として災害情報の取り扱いと発信について地元マスコミと協定を結び、「災害対応組織力の総点検」を行った冊子を3000部作成し、関係各所に配っている」と話し「建設業に特化した『災害時の備え』のレベルを上げるのができた」と取り組みを確認した。

24年度の行動指針『しっかり働き ゆっくり休む4週8休』は、時間外労働の上限規制の問題に対して、1年半にわたってアンケート調査や提言活動を団体として行ってきたことや、会員企業の取り組み状態を踏まえたもの。青柳会長は「国交省ならびに群馬県



2024年以降の業界のかたちデルタモデル

また、時間外労働の上限規制の問題について青柳会長は「法規制を乗り越えた先の新たな建設業の風景をしっかりと見せていくことが、今後建設業が大きく変わっていく『きっかけ』になる」と話し、「2024年問題のポイント」は「労働時間とコスト」をセットで考えなければならない。タイムラグのある建設業の労務費の決め方など正面から議論していかなければならぬ」と述べた。

が受発注者間のワークリバランスの徹底を進め、オンとオフのメリハリの利いた仕事の進め方を推進していく中、それぞれの企業の組織内でもワークリバランスをしっかりと進めていくといった指針。会員はもろろん、関係部署にもしっかりと伝えていこうと力強く語った。

加えて、2024年度以降の地域建設業のかたちとしてG-i-action 2024を示し、「働き方改革」「限界工事量+α」「DXの展開」という3つの柱を積極的に進めるとし「特に限界工事量+αの部分では、地域密着型の事業量がどうなっていくのかを検証していかなければならぬ」と話した。

「ばならないテーマ」と述べた。

総会には山本一太知事をはじめ多数の来賓が出席。山本知事は「建設業界は、さまざまな課題がある中、災害組織力を10数年前と同じ状態でキープしている」と備えに賞賛の言葉を送ると「県としても国土強靱化を進めることも、安定的な事業量、予算確保に努めたい」とあいさつした。